



協会では3月23日、山科医師会との懇談会をウェブで開催。地区から7人、協会から6人が出席した。

山科医師会の榎堀徹副会長の司会で開会。冒頭、同会の安井仁会長より「ポストコロナにおいて、オンライン資格確認義務化や電子処方箋を端緒とする医療DXとかかりつけ医制度が重要な課題になる。我々は国民皆保険制度を守って

いかなければならない」とあいさつ。鈴木理事長のあいさつ後、「コロナ禍を踏まえ、これからの医療制度はどうあるべきか」「オンライン資格確認義務化と被保険者証廃止の動き」について意見交換し、協会より各部会からの情報提供を行った。

オンライン資格確認に関して、地区より「昨年から運用を開始しているが、メ

リットといわれる健診データや電子カルテの共有などよりも、事務的なデメリットが目立っている。マイナカードで受け付けした患者に保険者変更があった場合、データ更新が未了のため、返戻事例が目立つ。事務的な混乱がある」と意見が出された。これについて協会は「政府は保険者変更の場合にタイムラグが生じること認めている。変更

# 山科医師会と懇談

## 3月23日 ウェブ会議

### マイナカード受診対応での混乱多い

返戻されたが、審査支払機関に問い合わせても明確な説明が受けられないことがあった。

**皮膚科**

1. 廃止された皮膚科軟膏処置(100cm未満)の復活。軟膏処置は皮膚科診療の中心であり、患者指導の点からも復活を求めたい。
2. 細菌顕微鏡検査のうち白癬菌による皮膚・爪の2力所請求の復活。爪白癬治療の妥当性の担保のために、積極的な検査を推進するために必要。

※皮膚科医会は当日欠席のため、懇談会後に意見をいただいた。

協会は、基本診療料の引き上げは国へ継続して要望しており、最も重要な課題だとした上で、ご意見の通り感染対策や材料代など医

協会は4月27日、「第8次医療計画の焦点」をテーマに医療政策セミナーを会員病院向けにウェブ配信により開催。協会事務局・中村暁次長が解説し、21人の

「一面からの続き」

例えば注入器用注射針加算を算定するが、3カ月分針を渡した場合でも1カ月分しか算定できず、2カ月分持ち出しになっている。院外処方の場合、調剤薬局は3カ月分のコストが請求できるのに矛盾がある。他の材料加算と同様に、3カ月分を算定できるようにしてほしい。

療機関が持ち出ししているものもあると指摘。また、外来看護師の件費はまったく手当てされておらず、現在の報酬では賄いきれなくなっているが、厚労省と議

論した際も基本診療料の中にもその評価を含んでいないと、なかなか個別評価を認めようとしなかったと報告。しかし基本診療料の引き上げや各技術料について

の要望はいずれも切実な問題であるため、保団連・協会から強く要望していきたいと述べた。

最後に、保険審査ではローカルルールの廃止など

を行う医療機関には流行前と同水準の医療の確保を可能とする費用の措置(流行初期医療確保措置)などの特徴を挙げつつ、感染症危機に対する地域の医療機能強化の根本的見直しが行われないまま、新興感染症への対応が可能な疑問を呈した。

を含めて、今後コンピュータ審査の影響がさらに顕在化してくると考えられるため、問題があれば協会にご意見をお寄せいただきたいと思います。と述べ終了した。

# 「第8次医療計画」で医療機関の地域での役割が明確に

## 医療政策セミナー開催

参加があった。

セミナーでは、24年度からの第8次医療計画策定に向けた動きが活発になってきているとし、まず①新型コロナウイルス感染症を「新興感染症・まん延時における医療」が6事業目追加されること②「かかりつけ医療能報告制度」の導入と相まって、これまで以上に外来医療の機能分化が強化されることに注目。

①については、都道府県と医療機関の間で、病床、発熱外来等医療体制確保に係る協定を締結する仕組みの導入、初動対応など

構想や医師確保計画により入院医療体制の再編・集約化が押し進められる一方、外来医療体制についても、外来機能報告制度に加え、病院も対象となる「かかりつけ医療能報告」が実施されることで、「紹介受診重

**第8次医療計画の概要(抜粋)**

- 二次医療圏の設定は、「入院に係る医療を提供する一体の圏域として成り立っていない」場合に見直しを検討
- 一般病床の基準病床数の算出では、コロナの影響のある2020年以降のデータを除外



出席者13人で開催された山科医師会との懇談

なることが今後も続くのは問題だ」と述べた。

また、新型コロナウイルス感染症について、地区より「5類に移行してもコロナウイルスの毒性は変わっていない」「インフルエンザが収まっても、コロナがまた流行するかもしれない」との意見が出された。協会より「政府は発熱外来を6万4000医療施設に広げるとしている。しかし、これまで

# 第76回 定期総会

## 第205回定時代議員会合併

第205回定時代議員会合併

**日時** 7月30日(日)

**開催方法** ハイブリッド形式  
(会場: ホテルグランヴィア京都5階「古今の間」)

**総会[Zoomミーティング]** 14時~16時

- 第205回定時代議員会合併
- 2022年度活動報告・決算報告
- 2023年度活動方針(案)・予算(案)、顧問委嘱 等

※懇親会は開催しません。  
※定期総会と講演会参加申込の詳細は本紙6月25日・7月10日の両号でご案内します。ご参加は協会ホームページの申込フォームまたはFAXでお知らせ下さい。代議員の先生方には、別途ご案内をお送りします。

### 講演会[Zoomウェビナー]

参加対象: 会員、家族・スタッフ

**演題** さくらんぼに見えた梅干し  
「別世界」というカルチャー

**講師** 京都外国語大学国際貢献学部グローバル観光学科教授  
ジェフ・バーグランド氏

#### 講演要旨

私の専門である「異文化コミュニケーション」は、性別・年齢・職業・出身地・社会的地位など自分とは異なる価値観や環境の相手とのコミュニケーションを意味します。もちろん国の文化も含まれますので、私が日本で体験した驚きの異文化コミュニケーション体験もご紹介します。

さらに、異文化コミュニケーションの学問から考えた場合、医療関係者の場合は「4つの文化(別世界)」が特に関係します。①ジェンダー文化②年齢文化③専門文化④国文化が代表的なものです。日々さまざまな方とコミュニケーションを取ることにより生まれる「自分とは違う常識や価値観の人」とどうコミュニケーションを取っていくのか? そんなヒントになればと思っています。

16時15分~17時30分



**【プロフィール】** 米国南ダコタ州出身。1969年同志社大学に留学。翌年、カールトン大学を卒業、9月から同志社高校に就職。大手前女子学園、帝塚山学院大学教授を経て、2008年京都外国語大学教授に就任、現職に至る。同志社高校での教師歴22年の経験と、大学での指導は30年以上のキャリアを誇る。専門は異文化コミュニケーション。趣味は掃除・お洗濯・尺八・ジョギングなど。京都在住53年、京都国際観光大使。江戸時代後期に建てられた京町家に暮らす、日本の文化を愛する一人。現在、NHK「京コトはじめ」、KBS京都「サニータイム」などに出演。主な著書に『日本から文化力~異文化コミュニケーションのすすめ~』『受ける日本人繋がる日本人~いま世界に伝えたい受信力』等。







